

平成30年度 第66回 防衛大学校開校記念祭  
防衛大学校長式辞

本日この晴天のもと第六十六回防衛大学校開校記念祭が昨日から開催され本日に至りました。本日は、多くの方々にご参列いただき防衛大学校を代表いたしまして心より御礼申し上げます。有難うございます。また、本日のこの式典に対しまして、横須賀市の市長そして、市議会の議長もお越しく下さいました。有難うございます。

さて、今年の開校記念祭の共通テーマは、「未来へ繋ぐ」であります。言うまでもなく防衛大学校は、将来の幹部自衛官を養成する学校であります。現在の学生諸君が本当の意味でこの国そして世界のために働くのは、十年、二十年、三十年後まさに未来に諸君たちがこの国そして世界のために働くわけであり、つまり、未来へと繋ぐ人材を養成する学校であります。未来は、現在なくして作ることはできません。そして現在は、過去なくして作ることはできません。したがって、未来は、過去との会話の中で現在そして未来へと繋いでいくわけであり、防衛大学校は、六十六年の歴史を刻んでおりますが、そうした歴史を脈々と繋いでいくということであり、この「未来へ繋ぐ」というテーマをいただいてから、私は次の三つの事を頭に思い浮かべました。

やや小話めいておりますけれども、まず第一に思いついたのは、今、映画で人気になっております、「散り椿」という映画であります。これはもともと葉室麟という作家、残念ながら亡くなられましたけれども、時代小説であります。私も映画を見てから小説を読みました。椿というのは、侍が非常に嫌う花ではないか、それは花がポトリと落ちるからであります。首が落ちるように落ちてしまうからであります。しかしこの「散り椿」というのは、別の種類でありまして、赤や白やピンクの色の花びらが一枚一枚散っていくわけで、ポトリ首ごと落ちるわけではない。これを題材にした、時代小説で戦士たちが藩の不正を暴いていく、そして一人一人散っていくわけですが、その小説の中で散っていく椿は残った椿があると思えば見事に散っていくことができるのである。こういったことが防衛大学校かなと思います。この歴史の中で、卒業生は自衛隊で活躍してくれています。こうした卒業生たちが帆を張りながらそして、新しい現役の学生たちに繋いでいくということであり、

二つめの小話は、先週ラグビーの大きな試合がありました。オールジャパン対ニュージーランド、有名な世界一のオールブラックスであります。この試合

に、幸運なことに招待されまして、招待されたのは防大生の諸君のおかげであります。後ほど演技がございますけれども、儀仗隊が開会式にドリル演技を披露するというのでそのオープニングに登場いたしました。また、防大生の諸君たちが国旗として大会旗を持つという大役を担ってくれました。残念ながらテレビの放映の前ですけれども。しかしながら、非常に誇りを持って私はそれを見ることができました。このラグビーの試合は、多くの方がご存じのとおり、非常に大事なルールがあるわけでありまして。それは、ボールを前に投げてはいけません。スローフォワードしてはいけません。ボールは必ず後ろに投げる。しかし、後ろに投げて繋いで前進していく陣地を取っていく。こういうスポーツであります。これを見てまた防大を思い出しました。つまり、ボールを前に投げることはできないけれど、六十六年の歴史の中でボールを繋いでそして、少しずつ前進していくということを、我々はしているのではないかと、これが防衛大学校なんだと。

三つめの小話は、女性の活躍。現在日本は、そういった深刻な問題を抱えておりますが、こうした問題を解決する一つの方法として、これまで十分に活用されていなかった女性の役割これをもっともっと活用できないかという議論が日本中で起こっております。実はこの議論は、自衛隊でも、防衛大学校でもございます。非常に残念なことでありますが、ある意味ではそこから未来に向けて、女性の活躍は本当に社会の活性化のために我々にとっては重要であります。防衛大学校も例外ではありません。女性の活躍、人数も増えてきています。これから益々活躍を期待しているところであります。本日の、「未来へ繋ぐ」というテーマに引き寄せて女性が未来を繋ぐ、駄洒落ではありますが、「ツナガール」

防衛大学校は、期待と夢を繋ぐ学校であります。現役の諸君たちは、これからも研鑽。良き幹部自衛官になる。それがまさにこの国、世界の未来へ繋ぐ、そうしたことになる。ということで、改めまして本日は、これだけ多くの皆様方にご参加いただき、防大生たちは本当に心からのおもてなしをさせていただきたいと思っっているはずであります。夕方に予定されております棒倒しまで、どうぞごゆっくりと、そして防衛大学校を堪能していただければというふうに思います。本日は、有難うございました。

平成30年11月11日  
防衛大学校長 國分 良成